

# 授受表現における日タイ語対照研究

——〈現象的理解〉から〈場面的理解〉へ——

田 中 寛

## 1. はじめに

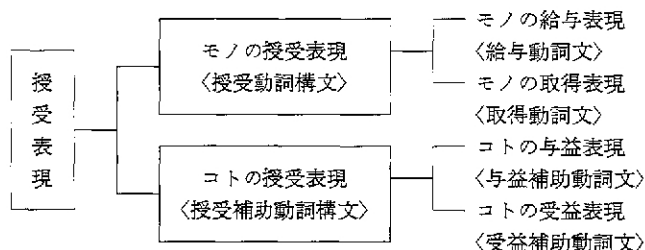
モノの授受、動作の受益をめぐる表現は、「授受表現」benefactive constructions と総称されるが、人物の配置や、聞き手と話し手の上下関係からあらわされる待遇表現としての使用・出現頻度は日常生活の中ではきわめて高く、形態も用法也多岐に及ぶ。表現者の立場、視点という角度からみれば、受身表現、使役表現との関わりも随所に見られるなど、ヴォイス的な性格もそなえている。したがって、多様な環境の中で使用されるこれらの構文的機能については、体系的にとらえる一方で、個々の具体的な現象・用法についても分析が進められなくてはならない。

日本語教育の実際においても、これらの構文については言語間の相違から見たさまざまな比較検討と教授法の工夫が求められており、特に後者の個別的な考察では「～してくれる」、「～してもらう」、「～させていただく」、「～させてあげる」など、特に受益表現をめぐる対照的記述や、「～させる」と「～してもらう」、「～していただく」と「～してくださる」などの関係構文の選択要因についても早くから注目され、多くの考察が進められてきた。一方、誤用分析研究と隣接する対照研究の重要なテーマとしても、これまで英語、中国語、朝鮮語などとの比較考察が行われ、普遍的事実と個別的特徴とがうきぼりにされてきたが、まだ十分とは言いきれない。さらに、より多くの事例研究と比較対照による分析が望まれる。授受

表現の対照分析によって、文法化の普遍的現象を検証する研究は、日本語の授受表現の特徴を正しく把握し、記述することにつながる重要な作業となるからである。本稿ではタイ語の授受・受益表現を日本語と対照させながら、両者の重なる点と個別的な特徴とを観察し、日本語教育の実際に役立つ視点のいくつかを考えてみたい。

タイ語と日本語の比較対照については日本語教育の面から唯一、江田(1983)があるものの、紙面的な制約と限られた資料から、いくつかの考察すべき問題点が残されている<sup>1)</sup>。待遇表現を含むタイ語自体の授受・受益構文の研究をみても、文法構造、談話的な機能の両面における具体的な考察ははなはだ不十分である。本稿では主としてタイ人の日本語学習者向けに作成された日本語教科書や参考書、辞書類を資料としながら、これらの構文的、談話的機能の特徴を明らかにしてみることとする。

ここで本稿で用いる用語について解説、確認をおこなっておく。授受という言葉をめぐるのは、「やりもらい」、「受給」などの呼称がみられるが、本動詞を用いた表現か、補助動詞を用いた表現か、若干紛らわしい場合が生じることから、次のようにあらわすことにする<sup>2)</sup>。



本稿ではモノの授受表現における給与と取得という視点が基底的認識になって、コト、すなわち動作行為の授受表現における与益と受益の表現の

1) 江田 1983 では日本語の文学作品の翻訳を比較考察の資料にしているが、文学作品では多少意識されることもあり、注意が必要である。

2) 用語については奥津(1984)などにほぼしたがう。

方向性をもたらしているものと考え、コトの与益表現と受益表現の諸相を、日タイ両語の対照を通じて、明らかにしようというものである。その際、使役態構文、受動態構文との相関についてもふれていきたい。また、授受表現を広義にとらえた場合、待遇表現としての行為、現象も当然視野に入れる必要がある。これは主として誰かの利益のためにある動作や状態を含む行為がおこなわれる事態をあらわすことから、コトの授受表現にかかわる問題であると同時に、「私がお待ちする / 私を持ってあげる」、「先生にお話しいただきます」、「ようこそお越しくださいました」のような、敬意行為の表現とも密接なかかわりをもつ。後半ではこうした談話的展開における授受表現をも射程におきながら、考察を進めていくことにしたい。

## 2. コトの与益表現における日タイ語の比較

動作行為の与益は日本語では基本的に本動詞としての「アゲル」を始めとする授受動詞が補助動詞として用いられるが、タイ語でもモノの給与表現に用いた *hâi* がコトの与益表現では動詞句の後に補助的に用いられる。次に〈モノの給与表現〉と〈コトの与益表現〉を比較する。

### 〈モノの給与表現〉

Y	<i>hâi</i>	X	<i>kèe</i>	Z	$Y \text{ハ} Z \text{ニ} X \text{ヲ}$ ... アゲル, サシアゲル, ヤル, ... クダサル, クレル
			<i>kàp</i>		

Y; 与え手(旧所有者) X; 移動事物 Z; 受け手(新所有者)

*kèe, kàp*; 前置詞(与格格助詞「～に」に相当)

### 〈コトの与益表現〉

Y	VERB X	<i>hâi</i>	Z	$Y \text{ハ} Z \text{ニ} X \text{(ヲ)シテ}$ ... アゲル, サシアゲル, ヤル ... クダサル, クレル
---	--------	------------	---	---

Y; 与益者 VERB X; 恩恵にかかわる動作行為 Z; 受益者

タイ語の給与動詞は日本語の5種類の給与動詞に対して、hâi だけのニュートラルな動詞「与える」であらわされ、人称や地位に応じての動詞の使い分けは見られない。また、タイ語においては日本語に見られるような「アゲル」、「クレル」の方向性も区別されることなく、「～テアゲル」も「～テクレル」も構文的な差異は認められないのが普通である<sup>3)</sup>。

1. a. chán hâi nângsǔu kèe nǎnchaai.

私 / 与える / 本 / に / 弟 [私は弟に本をあげる]

- b. chán sǔu nângsǔu hâi nǎnchaai.

私 / 買う / 本 / 与える / 弟 [私は弟に本を買ってあげる]

2. a. khaó hâi wǎen kèe dichán.

彼 / 与える / 指輪 / に / 私 [彼は私に指輪をくれた]

- b. khaó sǔu wǎen hâi dichán.

彼 / 買う / 指輪 / 与える / 私 [彼は私に指輪を買ってくれた]

動作の受益者が場面上言及する必要がない場合は、1. 2. のそれぞれの例 b. において、nǎnchaai「弟」、dichán「私」は省略されてよい。ここで、受益者と与益者との関係性(上下待遇関係)に注意しないと、タイ語では次のような誤用がしばしば見られることになる。

- ?3. a. 先生は私に日本語を教えました。

- b. 先生は私に日本語を教えてあげました。

上記の文はタイ語では次のようにあらわされる。

- 3'. aacaan sǎn phaasǎa yǐpùn hâi dichán.

先生 / 教える / 語 / 日本 / 与える / 私

[先生は私に日本語を教えてくださいました / くれました]

3) 以下の用例資料の出典については本文末にかかげた。例文は国際音標文字による表記文の下に該当する日本語の語釈、日本語文を記した。なお、音声表記については宮田 1990 におおむねしたがったが、? (声門閉鎖音) については最小限度にとどめた。またタイ語の概略については坂本 1989 を参照した。



したがって、タイ人学習者に対する「～テアグル」と「～テクレル」の導入、指導にあたってはこの点を十分に注意しておく必要がある。モノの給与表現では日本語の与格格助詞「ニ」に相当する *kêe* (または *kàp*) が用いられたのに対して、コトの与益表現では *hái* が「～に～してあげる/してくれる」という日本語の格助詞と補助動詞の二つの機能を担っていることが分かるが、上記の誤用の背景には、この *hái* の前置詞としての機能が優勢に働いていることの一因が認められるであろう。

与益表現のなかで奉仕、申し出をあらわす日本語の「～してあげましょうか」という構文については、タイ語では次のような形式が見られる。

#### 4. *phǒm còt thǎi-yùu hái khun ao mái?*

私 / メモする / 住所 / あげる / あなた / 欲しい / か

[(私は)あなたに住所を書いてあげましょうか]

これは同時に相手の意向を問う諸否疑問文でもあるが、文末に *ao mái* という確認の動詞句が付加されている。この文法現象はタイ人の日本語運用に関しても次のような干渉がしばしば見られることになる。

4' \*私はあなたに住所を書きます、欲しいですか。

また、次の同じ意向をあらわす文においては *chúai* 「手伝う」という動詞が具体的な恩恵の行為である *thǔu* 「持つ」の前に置かれているが、これは *chúai* の以下の動作のいわば前振りの用法で、日本語にはみられない付加的要素として重要である。すなわち、*chúai verb-ph. hái* 「手伝って～してあげる」という動詞フレーズを重ねた構造をなしている。

#### 5. *chúai thǔu khǒng nán hái ao mái?*

手伝う / 持つ / 物 / それ / あげる / 欲しい / か

[その荷物を持ってあげましょうか]

行為を説明する動詞は *chúai* に限らず、具体的な動詞も援用される。次の二つの例は最初の行為指示動詞と、後の *hái* 以下の動詞フレーズが、全体として一つの行為を形成して、動詞連動句的な意味を構成している。

#### 6. *phǒm àan nǎngsǔu hái nóŋchaai fap.*

私 / 読む / 本 / させる / 弟 / 聞く [私は弟に本を読んでやった]

7. **dichán sǒon hâi nǒonsǎao tham kaan-bân.**

私 / 教える / あげる・させる / 妹 / する / 宿題

[私は妹に宿題を教えてやった]

直訳では6.は「私は本を読んで——弟に聞かせた」、7.では「私は教えて——妹に宿題をさせた」のように使役行為を含意して、「～てやる」行為の前振れとでもいうべき方向性を意味づけているのである。hâi は与益の補助動詞と使役の助動詞を兼務して、動詞連動句 Vp1-Vp2 を形成していることがわかる。

以上は日本語の「～してあげる」に対応する例を見たが、次に「～してあげる」に相当する hâi があらわれない場合をみておくことにする。

8. **phǒm phaa dèkdèk pai sǎan-sát.**

私 / 連れる / 子供 / 行く / 動物園

[私は子供を動物園に連れて行ってやった]

9. ... khít wâa ca nam thú?rian kláp pai sák 2-3 phǒn phǔua tham-hâi phûak phûan-phûan dâi dii-òk dii-cai kan.

思う / ～と / 持つ / ドリアン / 帰る / 行く / ばかり / 2-3 / 個 / ために / させる / たち / 友達 / 得る / 喜ぶ / ～合う

[日本へ帰るときはドリアンを2,3個持って友達を喜ばせてやり  
たいと思っている]

9.の thamhâi も使役助動詞としてのみ機能し、与益表現における恩恵のほどこされる方向を示すものではない。一方、日本語で「～してあげる」という与益表現があらわれない代わりに、タイ語で hâi が用いられている場合がある。次の例ではタイ語の hâi は日本語に訳すと「(家族に)迷惑をかけてあげた」のように余剰的な説明になってしまう。

10. **con-krathâng thǔng tǒn nán chán mâi rúu-tua lǎei wâa dâi tham khwaam-dùatrǒn yàaṅ-mâak hâi kèe khrǒpkhrua.**

まで/至る/とき/その/私/ない/気付く/全然/言う/得る/か  
ける/迷惑/大変/与える/に/家族

[私はその時まで家族に大変迷惑をかけていたことに気付かなか  
った]

一般にタイ語では日本語のように頻繁に「～してあげる」「～してやる」という与益的な成分を意識して使わない傾向があるように思われる。こうした表現の違いは、文の中心的な意味をなす動詞の方向性付与の含意解釈によるものか、そうした動作行為の個有の性格にもとづくものか、定かではなく、多くの動詞表現についての調査が必要であろう。

さきに日本語の「～テアゲル」「～テクレル」がタイ語の与益表現において一般的に構文的な差異が見られないと述べたが、もう少しこのことを考えてみよう。「～テクレル」のもつ恩恵の意味が部分的にしめされる特徴の一つに前述の動詞 *chûai*「手伝う」が用いられるケースがあった。

11. *lòn chûai athíbaai hêt-phôn kèe chán.*

彼女/手伝う/説明する/理由/に/私

[彼女は私に理由を説明してくれた]

もう一つは、*chûai* や *hái* を用いない代わりに、過去の事態を強調する *dái* が恩恵の授与の方向性をあらわすことがある。

12. *phanrayaa khǒng káo phróom-dûai lúuklúuk iik 2 khon dái òok maa khǒi tôn-ráp phǒm.*

妻/の/彼/一緒に/子供/あと/2/人/得る/出る/来る/待つ/  
歓迎する/私

[奥さんと子供達二人がそろって僕を出迎えてくれた]

*hái* はまた中心義をなす動詞自体が「～してあげる」「～してくれる」という恩恵の方向性をすでに含意している場合、省略される傾向がある。

13. *boonát kǒ òok léso, khun-khaaneeko mái hěn lánj læi.*

ボーナス/も/出る/～した/金子さん/～ない/見える/おごる/  
全然 [ボーナスが出ても金子さんは全然おごってくれない]

次に「～テクダサル」についてみてみよう。この場合は **hâi** の前に、**karunaa**「親切にも」のような副詞的な付加成分を添えることが多い。

14. **phûucátkaan-borisat karunaa chœn phôm pai nœan wan-kœt.**

社長 / 親切な / 招待する / 私 / 行く / パーティー / 誕生日

[社長は私を誕生パーティーに(親切にも)招待してくださった]

ここでタイ語の「貸す / 借りる」と「～テクレル」構文との関係について述べておきたい。日本語の「貸す」はタイ語では、

15. **khrai hâi khun yuwm nânsũu lœm nân ?**

だれ / ～させる / あなた / 借りる / 本 / その

[誰がその本をあなたに貸してくれましたか]

のようにあらわされる。つまり、「貸す」は「借りる」がもととなって、**hâi yuwm** という合成語で示される。15. の例は直訳では「誰があなたにその本を借りさせたか」という意味になる。次の応答文では、**khrai**「誰」のところに正解を埋める形になり、「武田さんが私に借りさせた」(直訳)という意味を構成する。

16. **khun-takeda hâi phôm yuwm.**

武田さん / させる / 私 / 借りる [武田さんが貸してくれました]

これと関連して、日本語の「見せる」もタイ語では **hâi duu**「見させる」という合成語でしめされ、使役助動詞 **hâi** をともなう点は、「貸す」にみられた意味構成と事情を一にしている。

17. **phûan hâi phôm duu rûupthài khœng kháo.**

友達 / させる / 私 / 見る / 写真 / の / 彼

[彼は私に写真を見せてくれた]

この「貸借」をあらわす日本語の文はタイ人学習者にとっては、「\*誰があなたにその本を借りてもらいましたか」といった誤用や、「見せる」についても「\*友達に私に写真を見せました」のような誤用が起こることが多く、個別的ではあるが、指導の際には注意する必要がある。

### 3. コトの受益表現における日タイ語の比較

次に日本語の「～テモラウ」「～テイタダク」に相当するタイ語の表現をみてみよう。モノの取得表現では、基本的に次のようにあらわされる。

Z	dâiráp	X	càak	Y	ZハYニXヲ・カラ ...モラウ, イタダク
---	--------	---	------	---	---------------------------

Z; 受け手(新所有者) X; 移動事物 Y; 与え手(旧所有者)

càak; 前置詞(起点格格助詞「～カラ」に相当)

#### 18. a. phǒm **dâiráp** còtmăai càak fəɛŋ.

私 / 受け取る / 手紙 / から / 恋人

[私は恋人から手紙をもらった]

#### b. chán **dâiráp** naarikaa càak phûucàtkaan-borisât.

私 / 受け取る / 時計 / から / 社長

[私は社長から時計をいただいた]

のようにモノの取得では人物の上下関係に影響を受けることがなく、ニュートラルな動詞 **dâiráp** 「受け取る」を用いた同じ構文であらわされるが、コトの受益表現では、**dâiráp** を用いる形式を始めとしていくつかの形式が認められる。ここではそれを四つのケースに分けて考察してみたい。

①ひとつは動作行為を発する側と受ける側の位置の変換である。タイ語では一般に「YはZにXしてモラッタ/イタダイタ」という言い方よりは「ZはYにXしてアゲタ/クレタ」という言い方を好む傾向がある。これは行為の自立的な“恩恵の帰着側”からよりも他律的な“恩恵の始発側”を優先して述べるところに発想的な特徴がみられる。例えば、

#### 19. aacaan **sǒɔn** phaasăa-yîipùn **hâi** phǒm.

先生 / 教える / 日本語 / 与える / 私

[先生は私に日本語を教えてくださいました]

#### 20. phanrayaa khǒɔŋ hũanăa-phanĕk **karunaa tham** aahăan

**hâi phôm.**

奥さん / の / 課長 / 慈悲(親切にも) / 作る / 料理 / 与える / 私

[課長の奥さんは私に(親切にも)料理を作ってくださいました]

21. aacaan **dâi karunaa àan** wíthayaaniphon **hâi kòon-thîi-ca**  
nam pai sànnǎ **thîi prachum.**

先生 / 得る / 慈悲(親切にも) / 読む / 論文 / 与える / ~する前に /  
持つ / いく / 発表する / で / 会議

[論文を発表する前に先生は(親切にも)読んでくださいました]

22. sǎacai **thîi tham pàakkaa thîi phîchaaí súrur hâi hǎai.**

残念だ / 関係代名詞 / する / 万年筆 / 関係代名詞 / 兄 / 買う / あげ  
る / なくす /

[兄が買ってくれたペンをなくして惜しいことをした]

のように日本語では「私は先生に日本語を教えていただきました」, 「私は課長の奥さんに料理を作っていただきました」, 「先生に論文を読んでいただきました」, 「兄に買ってもらった~」というべきところを, タイ語では上記のような言い方が好まれる。文のもつ知的意味には変化はないものの, こうした言い方には受け手自ら働きかけて頼んだ結果の受益というよりも, 先方からの一方的な受益というニュアンスが感じられ, 日本語特有の「~していただく」の真意がうまく伝わらないことも多い。そうした意味を補足する配慮からは, 20. 21. のように **karunaa, dâi karunaa** という語を添えることにより, 丁寧な敬意を表わすことが可能である。19. 20. 22. のように **hâi** があって, 恩恵の方向性が示されているものは日本語に近い形式がみられるが, 21. や

23. khon-túrur **bòok** **kháo wáa kaan prachum ca rôem kii-moon.**

他人 / 言う / 彼 / 言う / こと / 会議 / will / 始まる / 何時

[彼は会議が何時に始まるか教えてもらった]

のように **hâi** がない場合もあるので, 日本語に置き換えた場合「(誰か

が)彼に教えてくれた」が「彼に教えた」という表現になることも多い。

②次に使役助動詞 *hâi* を用いる言い方である。つまりタイ語では「Y は Z に X してモラッタ」という表現が、「Y は Z に X サセタ」という構文との重なり現象が生じる。「～してもらう」は謙讓使役と呼ばれることがあるが<sup>4)</sup>、タイ語の場合、まさにそれにふさわしい状況が観察される。

24. a. *chán hâi aacaan chûai ɲaan.*

私 / させる / 先生 / 手伝う / 仕事

[私は先生に手伝ってもらった]

b. *chán hâi nóonchaai chûai ɲaan.*

私 / させる / 弟 / 手伝う / 仕事

[私は弟に手伝わせた]

のように間接目的語(受け手)と与え手との上下関係によって、どちらかの表現が選択されるということで、形式的な差異は見られない。

使役助動詞の *hâi* を用いた受益表現は次のような例にみられる。

25. *khít-wáa ca tham arai bɛɛp aahãan-isaanisaan hâi khun loon thaan duu.*

～と思う / will / 作る / 何か / 種類 / イサン料理 / させる / あなた /  
～してみる / 食べる / ～してみる

[何かイサン料理でも作ってあなたに食べてもらおうと考えています]

26. *thaa mii khâi sũuŋ kwàa 40°C kôo ca tɔŋ hâi phêet truat hâi thanthii mǎiwâa ca pen wanyùt rǔu klaŋdùk kôo-taam.*

もし / ある / 熱 / 高い / より / 40°C / なら / will / なければならない / させる / すぐ / ～であれ / will / だ / 休日 / または / 真夜中 / いずれにせよ

4) 奥津 1984 などによる。これに対し、「～サセル」は尊大使役と呼ばれる。なお、江田 1983 では「～テモラウ」がタイ語で動詞のみであられる例があげられているが、本稿では動詞固有の意味による個別的な現象とみなしておきたい。

[もし 40°C 以上の熱が出た場合にはたとえ休日や真夜中でもただちに医者に診てもらわなければなりません]

27. **hâi phûan thîi rûu rûan rôtyon dîi chûai pràp khrûanyon hâi.**

させる / 友達 / 関係代名詞 / 知る / こと / 車 / よく / 手伝う / 整備する / エンジン / 与える

[自動車に詳しい友人にエンジンの調子を見てもらった]

この **hâi** は次にくる人物名詞以下の動詞句に続いて「～に食べさせる」「～に診させる」「～に整備させる」という意味構成になっている。27. のように **chûai**「手伝う」が恩恵をほどこす意味で介在することもある。このように、**hâi** には使役と授受の二義性がみられ解釈に窮することもあるが、次の場合は **hâi** は使役の意味に解釈しないと不自然になる。

28. **aacaan hâi phûak-rao àan lé ples pen phaasaa-yiipùn māk.**

先生 / させる / 私たち / 読む / と / 訳す / に / 日本語 / たくさん

[先生は私たちに読ませたり日本語に翻訳させたりすることが多い]

こうした重なりや異同は文脈に多くを依存しているわけで、タイ人に説明するときはこの使い分けに慎重でなければ誤解を生じることがある<sup>5)</sup>。この **hâi** はまた「～られる」という受身表現をあらわす場合がある。

29. **phôm mîi yàak hâi náksùksăa maa hên khào læi.**

私 / ～ない / ～したい / させる / 学生 / 来る / 見る / 強調 / 全く

[私は学生に見られたくなかった]

日本語の「見られたくない」がここでは「見てもらいたくない」「見させたくない」という表現であらわされているのは興味深い。このほか、**hâi** には日本語の表現になじみにくいケースがある。

5) タイ語と日本語との使役構文の比較対照については、アンパーポーン 1983 に詳しい考察がみられる。



30. karunaa **bòok hâi** khun-naron wâa thaanaaka thoo-maa, léso \***hâi** khóo thoo-kláp maa hâi dichán thii-lăj.

～してください / 言う / あげる / ナロンさん / ～という / 田中 / 電話してくる / それから / させる / 彼 / 折り返し電話する / 来る / あげる / 私 / 後で

[田中が電話をかけてきたと、それから後で彼に折り返し私に電話をよこすようにとお伝えください]

下線部の二番目にあらわれる **hâi** (\*印)は「～させてください」や「～してもらいます」の意味でとらえるのは不自然で、**bòok hâi**「伝えてあげる」と併用して「～するように伝えてあげる」のような慣用的な形式になっており、ただちに日本語の授受表現に置き換えることはむずかしい。

⑧もう一つは動詞 **dâiráp** を用いた言い方で、その後に **kaan-**, **khwaam-** という名詞化接頭辞を用いて、それらの行為を受けるという意味で「～してもらう」の意味をあらわす<sup>6)</sup>。

31. **thâa dâiráp kaan sôn wíthĩ tham lâ-kôo khraikhrái kôo tham dâai.**

もし / 受け取る / こと / 教える / 方法 / する / なら / 誰 / でも / する / できる [作り方を教えてもらえば誰でもできます]

32. **phûak-rao dâiráp khwaam chûaithũu-wái-waaj-cai càak lûuk-kháa nai-rũuaj sǐnkháa lé? raakhaa-kháai.**

私ども / 受け取る / 信用 / から / 顧客 / について / 商品 / と / 売値 [私どもはお客様に商品と売値を信用していただいております]

33. **rao dâiráp khwaam chûailũa càak bôrisát TEC.**

私たち / 受け取る / こと / 協力する / から / 会社 / TEC

[TEC さんにはいつもお世話になっております]

6) この **kaan-**, **khwaam-** はそれぞれ動作動詞、心理動詞や形容詞に前接する名詞化接頭辞で、これらの **dâiráp** を用いた文は基本的にはモノの取得文の概念の延長にあると考えられる。

dáiráp は一方でタイ語の受動表現と深く関与していることに注意しなければならない。dáiráp を用いた文「～テモラウ」はしばしば受動文「～サレル」と意味的な重なりが生じることがある<sup>7)</sup>。

34. chán **dáiráp kaan líaŋ-duu càak khun-yaai.**

私 / 受け取る / こと / 育てる / から / 祖母

[私はおばあさんに育ててもらった]

の例では「育てられた」という意味と同定である。しかし、

35. phǒm **dáiráp mǎŋp-mǎai ɲaan càak khun-phǒ.**

私 / 受け取る / 任せる / 仕事 / から / 父

[私は父に仕事をまかされた]

の例では逆に「任せてもらった」という意味では不自然になる。このような交替・重なり現象についてどのような生起・制約の条件があるのかは、動詞の意味上の問題もあり、今後の考察の課題である。なお、dáiráp と類似的な dái が動詞の前に置かれて、「わざわざ」「せっかく」などの負担やもくろみをあらわすことで、授受表現の生成にかかわることがある。

36. khít-wáa yàak-ca sàdæŋ khwaam-khòŋpkhun dooi-chá?  
phǒ?yàaŋ-yīŋ kàp lúukkháa sūŋ **dái maa ùtnǔn yùu**  
**pen-pracam.**

と思う / ～したい / 表す / 謝意 / 特に / と / 顧客 / 関係代名詞 / した / 来る / 援助する / いる / いつも

[日頃からご利用いただいているお得意様にはとくに感謝の気持ちを表したいと思います]

37. phró?-wáa **dái khun chūai**, ɲaan cung sèt reo.

～から / した / あなた / 手伝う / 仕事 / それで / 終わる / 早い

[あなたに手伝ってもらったので仕事が早く終わった]

この dái は過去における行為の発生を個別的にとりあげて強調するもの

7) タイ語の受動文と授受構文との交渉については、田中(1997a)においても同様の指摘を行っている。

で、それが授受表現に関与している観をあたえるのであるが、ここでは、**dáiráp** と同じ様に「(機会を)得る」という意味に解釈されてよい。例 37. も直訳では「あなたが手伝うの(；機会)を得る」といった埋込み文を呈している。しかし、**dái** が **dáiráp** と同じような授受表現に関与する機能をもつかどうかの判断をくだすには、詳しい比較調査が必要であろう。

④ もう一つは **khǎo**, **khǎo hái** を用いる言い方である。**khǎo** は元来「求める、乞う、頼む」という意味の動詞だが、取得動詞「もらう」として使われたり、動詞の前に置かれて次のように「～させてもらう、～させてください」という取得補助動詞として用いられる。

38. **yàangnán**, **khǎo** sàŋ arai wái dāai mái?

それなら / 乞う / 命令する / 何か / ～しておく / できる / か

[じゃ、ことづけてくださいますか]

39. **khǎo** laa yùt sák sǎam-wan dūai.

乞う / 休む / ばかり / 三日 / 一緒に [三日ほど休ませてください]

40. **khǎo** phǎm loŋ kháp duu dāai mái?

乞う / 私 / ～してみる / 運転する / みる / できる / か

[私に運転させてくれませんか]

これは 40. のように **khǎo** の後に動作主 **phǎm** 「私」が明示されてもかまわない。こうした願い出の言い方も、「運転を代わる」ことを積極的に申し出る場合には、**hái** を用いた与益表現「～してあげる」の言い方が用いられる。

41. **càak** thūnīi chán ca kháp pai **hái** eēŋ.

から / ここ / 私 / will / 運転する / 行く / 与える / ずっと

[ここからは私が運転しましょう]

次の例では「泊めてもらう」が、タイ語では、**khǎo** が「(泊まら)せてもらう」という意味で用いられている。

42. **bāan** phūan yùu phátthayaa rao ca **khǎo** pai phák thīi  
bāan kháo kan khā.

家 / 友達 / いる / パタヤ / 私たち / will / 求める / 行く / 泊まる / で  
/ 家 / 彼 / ~合う / 丁寧辞

[友達の家がパタヤにあるのでそこに泊めてもらうことになってい  
るんです]

なお、個別的な例であるが、khǎo が名詞句を慣用的に受けて「～してい  
ただく」という意味になることがある。次例では「相談に乗ってもらう」  
がタイ語では「相談の言葉をもらう」(直訳)のようにあらわされる。

43. **khǎo kham prǔksǎa càak aacaan-yaamaamura kiao kàp**  
**rúang lúak hǎa-khǎo wíthayaaníphon.**

乞う / 言葉 / 相談する / から / 山村先生 / 関する / と / こと / 選ぶ /  
テーマ / 論文

[論文のテーマを決めるうえで、山村先生に相談に乗ってもらっ  
た]

また、khǎo の用法に関連して注意しておきたいのは前述の「見せる」の  
タイ語による表現である。hái duu であらわされる複合動詞は授受の性  
格によって、khǎo duu の形式であらわされることがある。

44. **khǎo duu nángsǔmphon nán hái phǒm nǒoi.**

乞う / 見る / 新聞 / それ / 与える / 私 / ちょっと

[ちょっと私にその新聞を見せてください]

45. **khǎo khon khānkhān duu phótchanaanúkrom.**

乞う / 人 / 近く / 見る / 辞書 [近くの人に辞書を見せてもらった]

45. のように特に khǎo duu のあいだに行為の与益者(近くの人)が来た  
場合、直接依頼表現ではなく「～テモラウ」の意味があらわされることに  
注意しなければならない。

khǎo は khǎo hái の形でもあらわれる。khǎo hái は文頭に置かれて、

46. a. **khǎo hái mii khwaamsùk.**

乞う / させる / ある / 幸福

[どうぞお幸せに]

- b. **khǎo hái hǎai wan hǎai khuaun.**

乞う / させる / なくなる / 日 / なくなる / 夜

[一日も早くよくなりますように]

のように「～であるように」という願望をあらわす言い方が主であるが、「～していただく」「～して下さい」という依頼表現にも用いられる。

47. a. **khǎo hâi rôem càak khun dâi mái khá?**

～であるように / 始める / から / あなた / できる / か / 丁寧語

[あなたから始めて下さいますませんか]

b. **thâa khǎn khamtòp sèt léso khǎo hâi sòn.**

もし / 書く / 答え / 終わる / ～した / ～であるように / 出す

[答えを書き終えたら、出して下さい]

khǎo hâi は ② で述べた hâi を用いた授受表現とくらべて、受け手から「お願いして、頼んで～してもらう」という意識が強く感じられる。

48. **phrô?-wâa mii khon phûut phaasâa-yiipùn dâai, cung khǎo hâi chûai pen lâam hâi.**

～から / いる / 人 / 話す / 日本語 / できる / それで / であるように / 手伝え / として / 通訳 / 与える

[日本語を話せる人がいたので通訳してもらった]

この依頼要求表現は次のような行為をうながす場面でもよく用いられる。

49. **gán kòon-ùun, ca khǎo hâi khun-khimuura? khûn-khlâao kôo-léso -kan khráp.**

では / まず / will / ～であるように / 木村さん / 挨拶する / ことに  
する / 丁寧辞

[それではまず木村さんに挨拶をしていただきますしょう]

khǎo または khǎo hâi は次のような願望をあらわす文にも頻出する。  
khǎo よりも khǎo hâi のほうがより丁寧な感じがあらわれる。

50. **yàak khǎo hâi phii chûai nénam phôm khào bōrisat phii khráp**

～したい / であるように / 先輩 / 手伝う / 紹介する / 私 / 入る / 会

[先輩の会社に入れるように私を紹介して欲しいんです]

以上の説明で確認しておきたいことは、「～していただく」という事実や現象的説明文の場合はタイ語では①のような「～してあげる / くれる」の文としてあらわされることが多く、「～してもらう」という現時点の要求、希望にもとづく談話的な場に依存する表現では①以外の、②～④の表現形式が選択される傾向がみられることである。これらの個別的な形式についてはさらに多くの場面的な特徴をふまえた考察が必要であろう。

#### 4. 授受表現の〈場面的理解〉について

以上はいわば授受表現が単一の文としてあらわれることを念頭に、いわば他の文環境や文脈を考慮せずに、構造的な特色をみてきたのだが、冒頭にも述べたように、それぞれの構文的な理解は得られても、場面的な、談話的展開での用法となると、それらの構文も多様にあらわれることから、自由に使いこなすには多くの課題が残される。ここでは、そうした点をふまえて、談話的な展開で頻用される授受表現のいくつかをみてみよう。

##### ①「お～します / いたします」の言い方

「～してあげる」という言い方は目上の人に対しては直接に用いられることはなく、むしろ「お～します / いたします」という謙譲的な言い方であらわされることが多い。この場合も *hài* の使役的用法が援用される。

##### 51. a. *ca hài hòp pen khǎw-khǎw mǎi khá* ?

will / させる / 包む / として / プレゼント / か / 丁寧辞

[贈物としてお包みしましょうか]

##### b. *hài phǎm pai ráp mǎi khráp* ?

させる / 私 / 行く / 迎える / か / 丁寧辞

[私が迎えに行きましようか]

51. のように *hài* のあとに動作主 *phǎm* 「私」が明示されることもかまわない。いずれにしても、文構造としては「～させますか」「～しても

らいますか」という使役文、または受益文として機能していることがわかるが、そのまま直訳したのでは、誤用が生じる可能性が高い。

52. **hái phǒm wát tua khun nǒoi ná khráp**

させる / 私 / 計る / 丈 / あなた / ちょっと / 終助詞 / 丁寧辞

[寸法を計らせていただきます]

52. の例では、**hái** が 3 節の ④ で述べた文頭の **khǎo** と同じような使われ方がみられる。こうした例をタイ人学習者に説明する際には十分な注意が必要であろう。

②「～してくださって / いただいて～」の言い方

授受表現が待遇表現のなかで用いられる慣用的な形式として、「～していただいて(ありがとうございました)」という感謝の表明がある。この「いただく」は「くださる」ともなり、その異同のニュアンスは微妙で明確に説明がつくものではないが、タイ語では同じ形式で示される。すなわち、

53. **khǎo tônrap thúkthúk-thân thii karunaa hái kiát maa rûam ñaan khǎoŋ phúak-rao khráp.**

乞う / 歓迎する / 皆様 / 関係代名詞 / 親切に / 与える / 名誉 / 来る / 参加する / 式 / の / 私たち / 丁寧辞

[私たちのパーティーによろこそおいでくださいました]

54. **tōŋ khǎo khòopkhun thúkthúk-thân thii karunaa salá? weelaa càak kamnòtñaan thii mǎakmaai maa rûam ñaan wanníi ná khá.**

なければならない / 乞う / 感謝する / 皆様 / 関係代名詞 / 親切に / 犠牲にする / 時間 / から / 予定 / 関係代名詞 / たくさんの / 来る / 参加する / 式 / 今日 / 終助詞 / 丁寧辞

[ご多用のところを本日の会にご出席いただきまして誠にありがとうございます]

のように関係代名詞 **thii** のあとに **karunaa** 「親切にも」という言葉を敬

意をあらわす「～してくださる / いただく」の意味で用いるのである。  
 karunaa の前に dái が置かれ、強調されることも多い。ただ副詞節や連  
 体修飾節内にあらわれる karunaa や chûai はかなり不透明でその用法  
 と日本語との対照はここでは十分に説明できない。53. 54. のように hâi  
 kiát 「荣誉を与える」、salá? weelaa 「時間を犠牲にして」などの副詞句  
 も併用されることにも注意したい。次の karunaa, thii dái chûai 以下  
 も日本語の「～テクダサル / クレル」に相当する表現と見られる。

55. khÿan wíthayaañíphon con sèt dâai, phró? aacaan  
**karunaa** né? neso thaang hâi.

書く / 論文 / まで / 終わる / できる / なぜなら / 先生 / 慈悲 / 指導  
 する / 方法 / 与える

[先生が指導してくださったおかげで論文を書き終えることがで  
 きた]

56. líang aahāan pen kaan khòp khun thii dái chûai  
 thamngaan.

ご馳走する / 料理 / として / こと / 感謝する / 関係代名詞 / した /  
 手伝う / 仕事をする

[仕事を手伝ってくれたお礼に食事に招待した]

### ③ 「～させていただきます」の用法

3 節の「～してもらう」に相当するタイ語表現の多面性について述べた  
 が、「～させていただく」にも言語行動のスタイルが種々あって一概に意  
 味を規定することはできない。次のような申し出、願い出のときには、  
 khǎo が動詞文の文頭に置かれて、「～したい」という希望を謙譲的にあ  
 らわすことができる。

57. khǎo laa òok càak bōrisàt tōon sîn duan-níi.

乞う / とる / 出る / から / 会社 / とき / 尽きる / 今月

[今月いっばいで会社をやめさせていただきます]

しかし、こうした積極的な態度はよりむしろ消極的な、やむを得ない事態



の進退にあたっては、次のようなより丁寧な形式が用いられる。

58. **khǎo khwaam-karunaa hâi phítcaaranaa sák 2-3 wan.**

乞う / 慈悲 / させる / 検討する / ばかり / 2-3 / 日

[2, 3 日検討させていただきます]

④「～してあげてください」の用法

聞き手を経由して第三者に恩恵をほどこすことを要求する文であるが、これも **hâi** を用いた依頼表現であらわされる<sup>8)</sup>。

59. **câotua phayaayaam temthii léso, karunaa chûai hâi kamlaŋcai tǎo-pai iik sák rá?yá?nuŋ.**

本人 / 印努力する / 精一杯 / した / 慈悲 / 手伝う / 与える / 勇気 / 今後 / あと / ばかり / しばらく

[本人は一生懸命努力しているんです。もうしばらくあたたかい目で見守ってあげてください]

この場合は「見守ってください」も「見守ってあげてください」も対象に向けられる意味はかわらず、混乱は起きない。タイ語でも「彼」が省略されていることも、文脈で解釈されることになる。しかし、次のような例では「～してあげてください」と「～してください」が助動詞 **hâi** の有無によって明確に示される必要がある。

60. **khǎo-thôot wanníi khǎo ànúyâat yùt.**

すみません / 今日 / 乞う / 許可 / 休む

[すみませんが、今日は休ませてください]

61. **khǎo-thôot wanníi khǎo ànúyâat hâi kháo yùt.**

すみません / 今日 / 乞う / 許可 / させる / 彼 / 休む

[すみませんが、今日は(彼を)休ませてやってください]

61. では「彼ヲ休マセル許可ヲクダサイ」という意味構造になっている。60. の話し手自身の行為の申し出に対して、61. は話し手以外の人物に代わっての行為の申し出である。この **khǎo** は前述の **khǎo hâi** の形でより

8) タイ語の依頼表現の概略については、堀江ブリー 1995 を参照。

丁寧に使われることもある。次の対話を参照されたい。

62. **khǎo hâi khun-aarii laa yùt gaan ná khráp.**

～であるように / アーリーさん / とる / 休む / 仕事 / 終助詞 / 丁寧  
辞 [アーリーさんを休ませてやってください]

dâai si, **hâi yut dâai læi.**

できる / 終助詞 / させる / 休む / できる / 強調

[いいですとも、休ませてやりなさい]

応答文は「休ませてやってください」という文ではあrawせない。「休ませなさい」「休んでもらいなさい」という命令文であrawされる。

⑥ 指示, うながしと授受表現

タイ語では行為を指示したり, 説明したりする文において, **hâi** があrawれることが観察されるが, これは3節で見たコトの受益表現とかかわるもので, 「～テイタダク / モラウ」という依頼表現の意味と同時に, 「～テクダサイ」という行為指示の表現意図があrawされている。

63. **mûa phûut khǎo-khwaam sèt léso, hâi kòt pùm àtsǎŋ lik-khráp.**

～時 / 話す / メッセージ / 終わる / した / させる / 押す / ボタン /  
録音する / もう一度

[メッセージを話し終わったら録音ボタンをもう一度押します]

64. **mûa næi klaai pen sǐ òk khǎao léso, hâi sài klua yìp muu.**

～時 / バター / 等しい / なる / 色 / ～ぼい / 白 / した / させる / 入れ  
る / 塩 / つかむ / 手

[バターが白っぽくなってきたら, 塩をひとつまみ入れます]

以上, 〈現象的理解〉にもとづく授受表現から, 〈場面的理解〉を求める授受表現のいくつかの類型をみた。このほかにも実際の談話場面においては例えば次のように多くの授受表現を用いた表現文型が考えられる。

65. 入社後は在庫管理などのトレーニングを受けていただきます。

(「受けてください」の婉曲依頼要求)

66. 自動支払い機をご利用いただいた場合は手数料をお支払いいただきました。(「利用した」「支払った」ことへの確認)

67. 18歳以上で電話連絡可能な方なら、お申し込みいただけます。  
(「申し込みできる」ことの敬意表現)

68. ご応募は一回の当選につきハガキ一枚のみとさせていただきます。  
(「一枚のみにしてください」の婉曲指定要求)

このような不特定多数の聞き手、受け手を対象に注記されるところの「～していただく」「お～いただく」「ご～いただけます」「～させていただきます」のような授受表現が。タイ語ではどのような対人的意識のもとで表現されるのかも今後、比較考察の対象として関心がもたれる。

## 5. おわりに

授受表現は日本語教育においては本動詞構文の導入から始まって、補助動詞構文へと、つまり、〈モノの授受〉から〈コトの授受〉へと発展していくわけだが、それぞれの項目の導入にあたっては、分散的であり、学習の発展過程で知識を効率よく体系化し、的確な運用を習得していくことはかなり困難なことである。実際には〈モノの授受〉も、〈コトの授受〉も等価的な比重で認知され、理解されることも多いのではないと思われる。

本稿では、授受表現のなかのコトの授受の諸相をとりあげ、多くの用例にもとづきながら、日タイ語の比較検討を行ってきたわけであるが、とくにタイ語では〈コトの受益表現〉において多様な表現が使い分けられることがわかった。これはそれだけ「～してもらう」の導入にあたっては細心の配慮を要するということであろう<sup>9)</sup>。そして、そこには使役文、受動文との構文的な重なりがみられた。とくに、タイ語では *hài, khǎo, khǎo*

9) 「～してもらう」の提出順序については、石原 1991 も使役と受身表現の相関を念頭において考察している。

hái などの機能に特徴がみられたが、これらの用法と関連して、指導の際には、〈使役——受動——授受〉といった相関も常に念頭におきながら、日本語と対照させていく必要がある<sup>10)</sup>。

授受表現はそれを含む単独の文だけをあつかったのでは表現意図を正確にとらえられないことも多い。「やりもらい」といういわば〈現象的理解〉としての文単位の考察から出発して、その表現が生起する場、立場を重視する〈場面的理解〉へと視野を広げていく過程において動態的にとらえる工夫が求められる。同様のことは授受表現の観察、考察だけでなく、受動文、使役文、可能文などについても指摘できるであろう。文のヴォイス的な性格については授受表現をふくめ、ともすれば文末における形式にのみ視点を向けて、どのような談話的背景のもとに使用されるのかという視点は、実際の教育の場でも十分に培かわれていないのではないだろうか。また、授受表現の理解にあたっては、その言語のもつ主観性、対象を把握する動作の方向性、ダイクシス、視点など、多くの要素を複合的にとらえていく必要がある。と同時に、授受表現の表現意図を正しく把握するためには、それらが用いられる文環境、場面の多様性を認識することが重要である。今後は授受表現と隣接する文の表現性にも注目しながら、考察の対象をひろげていきたいと思う。

#### 【用例資料】

『新日本語の基礎 I・II』 タイ語分冊 スリーエーネットワーク 1994

『日本語中級 II・III』 バンコク・泰日経済技術振興協会 1985, 1986

『中級日本語会話』 チュラロンコーン大学 北村武士他 1993

『〈は〉と〈が〉』、『する・した・している』(いずれもタイ語版)

バンコク・泰日経済技術振興協会 1988, 1990

その他

10) 日タイ語における授受表現の比較対照研究では、ウォラウット他 1996、田中 1997b によれば、スチャダー・ブサヨク 1977「受給表現〈て〉やる、くれる、もらう〉について」(大阪大学修士論文、未刊行)をはじめ、受動文や使役文との考察がこれまで多く行われており、タイ人側からみた関心の高さがうかがわれる。

【参考文献】

- 石原嘉人 1991 「表現内容を重視した文型の提出順序——「～てもらう」表現をめぐって——」『日本語教育』74号 日本語教育学会
- 上野田鶴子 1978 「授受動詞と敬語」『日本語教育』35号
- 大江三郎 1975 「日本語の授受動詞『やる』『くれる』『もらう』『日英語の比較研究——主観性をめぐって——』南雲堂
- 大曾美恵子 1980 「授受動詞構文に関する一考察」『日本語教育』40号
- 岡野喜美子 1972 「授受補助動詞と依頼行為」『講座日本語教育』第8分冊 早稲田大学語学教育研究所
- 奥津敬一郎 1979 「日本語の授受動詞構文——英語・朝鮮語と比較して——」『人文学報』132 東京都立大学
- ・徐昌華 1982 「『～てもらう』とそれに対応する中国語表現」『日本語教育』46号
- 1983 「授受表現の対照研究——日・朝・中・英の比較——」『日本語学』2-4 明治書院
- 1984 「授受動詞文の意味と文法」『日語学習与研究』22 北京對外貿易學院
- 『日語學習与研究』編集委員会
- 1986 「やりもらい動詞」『国文学解釈と鑑賞』51-1 至文堂
- 小池ユリ 1995 「日本語における授受動詞の意味」『横浜市立大学論叢』人文科学系系列第43巻第1号
- 江田すみれ 1983 「『てやる・てくれる・てもらう』とタイ語の表現——hài の用法に注目して——」『日本語教育』49号
- 久野暉 1978 『談話の文法』大修館書店
- 城田俊 1996 「話場応接態(いわゆる「やり・もらい」)——『外』主語と『内』主語——」『国語学』186
- 豊田豊子 1974 「補助動詞『やる・くれる・もらう』について」『日本語学校論集』1号 東京外国語大学付属日本語学校
- 平田泉 1995 「授受動詞文の基本構文——外国語としての日本語の視点から——」『ICU 日本語教育四十周年記念論集・日本語教育の課題』国際基督教大学日本語教育プログラム・日本語教育研究センター編 東京堂出版
- 堀口純子 1984 「授受表現にかかわる誤りの分析」『日本語教育』52号
- 1987 「〈～てくれる〉〈～てもらう〉の互換性とムードの意味」『日本語学』4-6 明治書院
- 宮地裕 1965 「『やる・くれる・もらう』を述語とする文の構造について」『国語学』63 国語学会
- 村田美穂子 1994 「『やる・してやる』と『あげる・してあげる』」『国文学解釈と鑑賞』59-7 至文堂
- 山岡政紀 1989 「授受補助動詞と依頼行為」『文藝言語研究・言語編』17 筑波大学文芸・言語学系

- 1993 「授受構文における動作主と受益者」『小松秀雄博士退官記念日本語学論集』2 三省堂
- 1994 「授受構文における視点と人称」『森野宗明教授退官記念論集 言語・文学・国語教育』三省堂
- 由井喜久子 1990 「受給動詞の運用——オマエニクレタル・(サ)セテモラウについて——」『日本学報』9 大阪大学文学部日本学科
- 1995 「～テクダサイと～テホシイと～テモライタイ——依頼の表現——」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(上)』くろしお出版
- 坂本恭章 1989 『タイ語入門』大学書林
- 田中寛 1997a. 「タイ語受動文の意味と機能——表現意図からみた用法の考察——」『語学教育研究論叢』14号 大東文化大学語学教育研究所
- 1997b. 「日タイ語対照研究序説——その方法論・経緯・展望について——」『語学教育フォーラム』創刊号 大東文化大学語学教育研究所
- 富田竹二郎 1990 『タイ日辞典』(改訂版) 天理養徳社
- アンバーボーン・アッチャワピチェタム 1983 「日・タイ両語における使役表現の対照研究」東京外国語大学修士論文 未刊行
- ウォラウト・チラソンバット他 1996 「タイにおける日本語教育」『世界の日本語教育』日本語教育事情報告編 第4号 国際交流基金・日本語国際センター
- 堀江インカピロム・プリヤー 1995 「タイ語の依頼表現」『日本語学』14-11. 明治書院